要約

主論文題名

Is antipsychotic polypharmacy associated with metabolic syndrome even after adjustment for lifestyle effects? : a cross-sectional study

（抗精神病薬多剤併用は、ライフスタイルの影響を調整した後でもメタボリックシンドロームに関連するか?: 横断研究）

内容の要旨

統合失調症患者は一般人口と比べてメタボリックシンドロームになりやすいと言われている。それは、統合失調症患者の不健康なライフスタイルが影響していると考えられるが、抗精神病薬治療の影響も示唆されている。その中で、抗精神病薬多剤併用とメタボリックシンドロームの関係を指摘する報告もあるが、直接的な影響は明らかにされていない。そもそも抗精神病薬多剤併用は、その有効性および安全性が証明されていないのにも関わらず、統合失調症治療において一般的に行われており、特に日本では世界各国と比較しその傾向が著しく高い。そこで本研究は、統合失調症外来患者において、ライフスタイルの影響を調整した後で抗精神病薬多剤併用がメタボリックシンドロームへどの程度影響するのかを調べるために行われた。本研究では2007年4月から2007年10月の間に山梨県立北病院において、334例の統合失調症外来患者に対する横断調査を行った。調査としては、メタボリックシンドロームの基準となる項目を測定し、測定時点の抗精神薬治療内容をカルテから調べた。また、食生活、喫煙習慣そして運動量といったライフスタイルについては聞き取り調査を行った。さらに、精神状態については対象者の主治医がGlobal Assessment of Functioning（GAF）を用いて評価した。そして、対象例をメタボリックシンドローム群、メタボリックシンドローム予備群、腹部肥満群、そして正常群の4群に分け、抗精神病薬多剤併用がメタボリックシンドロームに及ぼす影響についてライフスタイルを調整して評価するために多重ロジスティック回帰分析を行った。その結果、メタボリックシンドローム群は74例（22.2%）、メタボリックシンドローム予備群61例（18.3%）、そして腹部肥満群は41例（12.3%）であった。また、抗精神病薬多剤併用は167例（50.0%）に行われていた。多重ロジスティック回帰分析の結果、メタボリックシンドロームと性別、喫煙習慣、そして精神科治療歴は有意な関連を示した。抗精神病薬多剤併用はメタボリックシンドローム予備群と有意な関連がみとめられたが（調整済みオッズ比: 2.348、95%信頼区間 1.181-4.668）、メタボリックシンドローム群とは有意的な関連が認められなかった（調整済みオッズ比: 1.269、95%信頼区間 0.679-2.371）。

これらの結果から、抗精神病薬多剤併用は単剤治療と比べて、ライフスタイルの影響とは独立してメタボリックシンドローム予備群のリスクを増大させる可能性があるかもしれない。メタボリックシンドロームは心血管死のリスクを高めるため、抗精神病薬多剤併用の有効性や安全性をさらに明らかにしていく必要がある。